

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和6年12月13日
タイトル	「スイゲンゼニタナゴ」繁殖池調査2024！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和6年12月7日（土）スイゲンゼニタナゴ繁殖池の調査が実施されたので取材しました。

「スイゲンゼニタナゴ」は、最も絶滅の心配が高いため『種の保存法』で「国内希少野生動植物種」に指定され許可のないまま捕獲・販売・譲渡などをすることは厳しく禁止されている貴重な魚です。

水土里ネット福山は、福山市で発足した「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」に水利権者として参加し調査など様々な活動に協力しています。

この日は、繁殖池の管理をしている「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」の方々が調査に参加しました。

繁殖池は廃止されたプールを利用し、ブロックやプランターで水草を配置して産卵母貝のイシガイやマツカサガイをパレットに入れて池底に置き、自然に近い状態で無給餌による粗放的飼育を実施しています。

この繁殖池のスイゲンゼニタナゴは、約20年間水槽飼育で人工授精による増殖だったため、初年度は自然繁殖能力を保持しているか懸念されましたが、調査で自然繁殖を確認し関係者一同欢喜しました。

繁殖池は水草やアオミドロが成長しブロックなどの隠れ場所もあるため魚影が全く確認できず、ちゃんと成長しているのか心配しながら作業に取り掛かりました。

まず水中ポンプを使って繁殖池の水を別の場所へ一旦溜めます。水位が下がると池の中に設置しているブロックなどを全て運び出し、慎重に網でスイゲンゼニタナゴを掬ってバケツに移していきます。プランターの水草の間や産卵母貝が入ったパレットなどもよく見て、スイゲンゼニタナゴを見つけると傷つけないようにバケツに移していきました。最後の1匹まで採取すると水を元に戻しました。



元気なスイゲンゼニタナゴを確認できました！1匹ずつ採寸して写真撮影し、また繁殖池へ戻しました。産卵母貝もしっかり調査し記録に残しました。

調査の結果、スイゲンゼニタナゴは昨年の調査時52個体が78個体となり順調に繁殖していることが確認できました。

福山市環境保全課では、産卵母貝となるイシガイとマツカサガイを農業用水路から採取して入れたり、無給餌のため農業用水路の泥を繁殖池へ入れて餌が不足しないようにしたり、猛暑で水位が低下し水温が上昇しないよう定期的に注水するなどきめ細やかな管理をしておられます。また、鳥などの動物が侵入しスイゲンゼニタナゴが捕食されないよう網で覆うなどの対策をしておられます。

現在、河川や農業用水路でスイゲンゼニタナゴの生息を確認することは極めて困難であり絶滅寸前の状況と考えられ、今後は自然繁殖した個体を放流することが検討されていることから繁殖池での取り組みが益々重要となっています。

水土里ネット福山は、ふるさとの生きた財産である「スイゲンゼニタナゴ」が将来にわたり芦田川水系に健全かつ安定的に生息できるよう、水環境の保全と安定した農業用水の取水配水に努めるとともに農業用水の果たす社会的役割の重要性を発信することで、21世紀土地改良区創造運動を展開してまいります。